

つまり物事を見るに、理性を繩墨として行動しきへすれば、その結果は批難の餘地がない。これこそ眞のつかみ所で、種々なる訓戒を加へても、その状況が異へば迷が出る、何所で所信を行つても、この一念さへを持つて居れば事は一直線に過ぎない。善悪の評語をするにも、先づ之がはつきりして居なくてはならぬ。今日に於ては個々の訓戒を與へる事はあるが、短刀直入、理性の養成を忘却し、怠つて居る。この理性の養成に重きをおけば、今日女子の欠點なる幾多の性質も矯めらるゝ事と思ふ。我國に於て女子の教育が、案外長い時期を經過して居るにも拘らず、其の性質を矯むるに與りて力なきは、その根本に觸れて居ないからである。これから、諸子と共に先づこの根本義に觸れて進みたいと思ふ。近頃我國の海軍省でもドイツの今日在るを不思議となしたのか、深い哲學の根本概念に迄立ち入つてドイツ研究が始つたといふ事である。之は實に参考になる事で、殊に現今吾國に於る幾多女子の問題を解釋するのには最必要な事であらうと思ふ。

(大正六年十二月十五日、談話筆記、文責在幹事)

□途上雜記

文 一

カーンカーン、また金屬と金屬とを打合せ音は濕氣を帯びた朝の空氣を動かして聞えます。見るさ父さ子が大きな鐵材が何かの上で先のまくれたシヤベルをなをして居るのであります。二人とも一心にやつて居ます。子供は敵の額をならんでる劍術の先生の様な様子で、右足を前に踏み出してシヤベルの柄を固く握りしめて居ます。何さいふ可愛い努力であらう。私は、さうしてもこの可愛い努力をすてたくないと思ひました。ありつたけの努力をするさは何さいふ可愛い心であります。カーンカーンその音はまだきこえて居ます。ふり返つたけれども物のかげになつて見えませんでした。大方子供はまだ可愛い努力をつとめて居る事でせう。

感謝の辞

中川謙二郎

昨年六月余が校長の官を退き、随つて學術談話會との關係も表向は絶へたのであるが、當時學術談話會の會員たる生徒諸君は熱誠の溢れた送別の會を開き、尙ほ又翌七月發行の文科學術談話會々誌の上には、余の爲に特別な部面を設け、多數の誌面を此に割愛して、余に關する送序、詩、歌、感想録及び追懷記等を掲げられた。此さへ余にとつて過分の事である。然るに幾度か其の記事を繰り返し讀んで、會員諸君の余に對する敬愛の誠意の、斯程迄であつた事を知り得て、茲に更に深き感謝の意を表明する次第である。

回顧すれば、余の東京女子高等師範學校に關係したのは、會誌第十八號に余の略歴として示された通り、中々永い年月であつて、然も余の一生勤務した公職中の最も永いものである。斯る學校に校長として最後の七年間餘微力を捧げ得た事は、實に余の榮譽として亦深く感謝する所である。尤も此の七個年間、余に何等奏すべき功績も無つたのであるが、本會々員諸君の研究修養の年と與に進歩して來た事は、本會々誌を通覽すれば明に看取し得られる通りで、此は直接には會員諸君の爲に、間接には我が國の女子教育のために、欣喜措く能はざる所である。

茲に重ねて謝意を表し、本會々員諸君、益々壯健にして帝國の前途を深く顧念し、特に奮勵あらむ事を望むのである。